

B 病院新型インフルエンザ対応マニュアル

新型インフルエンザとは

1. 新型インフルエンザの特徴

新型インフルエンザとは、過去にヒトが感染したことがない新しいタイプのインフルエンザ（H A 又はN A 亜型）のことである。新型インフルエンザに対してヒトは免疫を持っていないため、世界中で大流行（インフルエンザパンデミック）し、人命や社会経済活動に多くの被害をもたらすことが懸念されている。

新型インフルエンザは、鳥インフルエンザが変化して発生すると考えられており、新型インフルエンザは、鳥インフルエンザが変化して発生すると考えられており、鳥インフルエンザウイルスが鳥やヒトなどの体内で変化する場合（突然変異）と、ブタやヒトの体内で鳥インフルエンザとヒトのインフルエンザが交じり合って変化する場合（遺伝子再集合）の2通りがあると考えられている。

2. 新型インフルエンザの判定基準

この症例定義は、現段階の知見をもとに定めたものであり、暫定的なものである。実際に新型インフルエンザが発生した場合は、その感染性や病原性の状況により症例定義を修正することになる。

(1)要観察例

新型インフルエンザの罹患が疑われ、調査が必要と考えられる者。法令上は入院勧告などの対象とはならないが、医学的・公衆衛生学的には他者との接触は控える事が望ましいと考えられる。

下記 又は に該当する者であり、かつ 38 以上の発熱などインフルエンザ様症状がある者、又は原因不明の肺炎や呼吸困難・若しくは原因不明の死亡例

原因不明とは、RSウイルスやアデノウイルスなどのウイルス性肺炎・マイコプラズマやクラミジアなどの細菌性肺炎・誤嚥性肺炎などの鑑別診断（喀痰・血液検査など）をした上で原因がわからない場合を想定

10 日以内に、ヒトへの新しい亜型のA型インフルエンザウイルスに感染している、又はその疑いがある鳥（鶏・あひる・七面鳥・うずら等）若しくは死亡鳥との接触歴を有する者

死亡鳥とは、大量に死んでいる場合を想定

10 日以内に、ヒトへの新しい亜型のA型インフルエンザウイルスに感染しているインフルエンザ患者（疑いを含む）との接触歴を有する者

接触歴とは、1mないし2mの範囲の濃厚な接触

【濃厚接触者の定義】

入国時、新型インフルエンザの感染を疑う者に同行した家族及び友人、渡航中行動をともにした集団・添乗員、搭乗（航行）中に世話をした乗務員（乗組員）、機内船内において一定距離内（検疫所が、機内の気流・空調、感染した者の動きなども勘案し、適宜判断する）に着座していた者などをいう。定義については、症例定義が明らかになり次第、適宜修正・追加など行い明確にする。

(2)患者（確定例）

38 以上の高熱及び急性呼吸器症状がある者のうち、以下のいずれかの方法によって病原体診断がなされたもの

ウイルス分離・同定による新しい亜型のA型インフルエンザウイルスの検出

ウイルス遺伝子検査による新しい亜型のA型インフルエンザウイルスの検出

感染対策の実際

下記の4項目に関してはすべてのインフルエンザ対策の基本となるものである。

インフルエンザワクチン接種

毎年の流行シーズンが始まる前に、職員は特に禁忌が無い限りワクチン接種を済ませる。

非常勤職員・委託業者・学生・職員家族などにもワクチン接種を奨める。

患者に対しても特に禁忌がない限りワクチン接種を奨める。

新型インフルエンザパンデミックワクチンの接種を奨める。

標準予防策の遵守

標準予防策とは、全ての血液・体液・分泌物・排泄物・創部は感染性があるものとし、取り扱う感染対策の基本である。

手指消毒 : 血液・体液・分泌物・排泄物・創部・汚染物に触った後は手指消毒する。

目に見える汚れがない場合は速乾性擦式消毒剤にて手洗い。

目に見える汚れがある場合は流水とハンドソープで手洗いを行う。

手袋 : 汚染物に触る時は事前に着用する。手袋をはずした後も必ず手洗いを行う。

マスク・ゴーグル : 汚染物の飛沫を浴びることが予想される時は着用する。

インフルエンザ患者を診察する場合はサージカルマスクとゴーグルを着用する

ガウン : 汚染物の飛沫を浴び、衣服を汚染する事が予想される時は、事前に着用する。

器具・リネン : 他の環境や他の患者を汚染しないよう注意して取り扱う。

針刺しなどの予防 : 針・メスなどの鋭利なものの取り扱いには十分注意する。

咳エチケット

医療スタッフは、咳嗽や発熱のある患者を診療する場合、インフルエンザであるかどうかにかかわらず、必ずサージカルマスクを着用する。診察後は手洗いを！！咳嗽や発熱のある患者、呼吸器感染症の疑われるすべての患者にはマスクの着用をお願いする。マスクの無い状況で咳やくしゃみをする場合は、鼻や口をティッシュなどで覆うこと、使用したティッシュは適切に捨て、直ちに手洗いをするを指導する。

ポスターなどを用いた感染対策の啓発

病院入口、外来、救急外来など目に触れやすいところに、インフルエンザに関するポスターを掲示し、感染対策などに関して職員ならびに患者・訪問者に周知徹底する。

【インフルエンザ流行フェーズ分類】 A：国外発生 B：国内発生

フェーズ分類	定義	イメージ	呼称
1	ヒトから新しい亜型のインフルエンザは検出されていないが、ヒトに感染する可能性を持つウイルスが動物から検出される。		鳥インフルエンザ
2	A ヒトから新しい亜型のインフルエンザは検出されていないが、動物からヒトへ感染するリスクの高いウイルスが動物から検出される。		
	B		
3	A ヒトへの新しい亜型のインフルエンザ感染が確認されているが、ヒトからヒトへの感染は基本的にない。		新型インフルエンザ
	B		
4	A ヒトからヒトへの新しい亜型のインフルエンザ感染が確認されているが感染集団は小さく限られている。		
	B		
5	A ヒトからヒトへの新しい亜型のインフルエンザ感染が確認され大きな集団発生が見られる。パンデミック発生のリスクが高まる。		
	B		
6	A パンデミックが発生し、世界の一般社会で急速に感染が拡大している。		
	B		
後パンデミック期	パンデミックが発生する前の状態へ、急速に回復する時期		

【感染対策の概要】 A：国外発生 B：国内発生

呼称	フェーズ分類	目的	具体策	
鳥インフルエンザ	1	トリの防疫	通常のインフルエンザに共通した感染対策	
	2			A
				B
3	A	標準予防策 +		
	B			
新型インフルエンザ	4	感染封じ込め	空気予防策	
			B	飛沫予防策
	5		A	接触予防策
			B	個室（陰圧室が望ましい）に収容 N95マスク、手袋、ガウン、ゴーグルなどのPPE（個人防護具）を着用
	6		A	
			B	

} 全て必要

【診療体制の概略】

呼称	フェーズ分類	目的	外来	病室	
鳥インフルエンザ	1		通常診療と変化なし	通常通り	
	2	A			
		B			
	3	A	鳥インフルエンザ流行地から帰国した疑い患者の診察など	ポスターなどを用いて鳥インフルエンザ疑い患者のスクリーニングを行う。疑わしい患者はホールディングルームに誘導し診察する	鳥インフルエンザ患者（疑いを含む）は感染症指定医療機関へ転送する
B		国内の鳥インフルエンザ感染者（疑いを含む）の診療			
新型インフルエンザ	4	A	流行地から帰国した疑い患者の診察など	<p>【国内発生時】</p> <p>インフルエンザ症状のある患者が来院された場合は、京築発熱外来への受診を誘導する。</p> <p>【患者数増の場合】</p> <p>トリアージを行い一般患者とインフルエンザ患者とが接触しないよう努める。インフルエンザ患者は、駐車場スペースの災害テント内で診療を行う。</p>	<p>新型インフルエンザ患者（疑いを含む）は新型インフルエンザ病棟で診療する。第1期はICUを感染病棟とし、2期は3階病棟を感染症病棟とする。</p>
		B	国内の新型インフルエンザ感染者（疑いを含む）の診察		
	5	A	流行地から帰国した疑い患者の診察など		
		B	国内の新型インフルエンザ感染者（疑いを含む）の診察		
	6	A	流行地から帰国した疑い患者の診察など		
		B			
後パンデミック期					

【新型インフルエンザウイルスの消毒】

《器材》

- 80℃の熱水で10分間の消毒
- 0.05%～0.5%の次亜塩素酸ナトリウムで清拭または30分間浸漬
- 0.55%フタラル（デスオーパ）に30分間浸漬
- 0.3%過酢酸に10分間浸漬
- 70%イソプロパノールもしくは消毒エタノールで清拭・浸漬

《環境》

- 0.05%～0.5%の次亜塩素酸ナトリウムで清拭
- 消毒エタノールで清拭
- 70%イソプロパノールで清拭

0.05%溶液はハイターを120倍に薄めて作成して下さい。例) ハイター20ml + 水2,400ml

《手指消毒》

- 速乾性擦式消毒用アルコール製剤、ハンドソープ + 流水

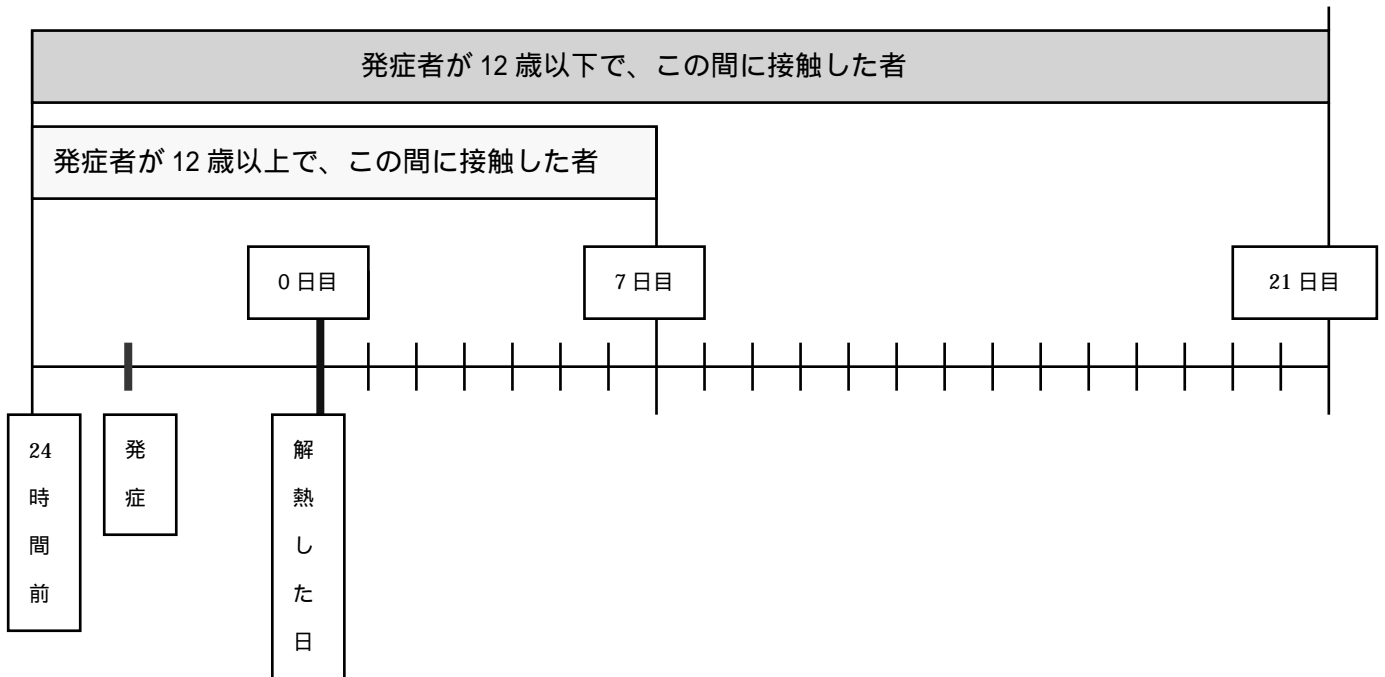
《車両による患者搬送に必要な器材》



- N95 マスク（搬送従事者数×2）
- サージカルマスク（搬送患者用に適宜）
- 手袋（1箱）
- フェイスシールドまたはゴーグル（搬送従事者×2）
- ガウン（防水で袖のあるもの）（搬送従事者×2）
- 帽子（搬送従事者×2）
- 速乾性擦式消毒用アルコール製剤（1本）
- 0.05%次亜塩素酸ナトリウム溶液
- 清拭用資材（タオル、ガーゼ等）
- 感染性廃棄処理容器
- その他（ビニールシート等）

【接触者調査】

新型インフルエンザの感染拡大を防止する為に接触者調査は極めて重要である。

接触者とは、新型インフルエンザ患者（擬似症患者を含む）が発症した日の1日（24時間）前より、解熱した日を0日目として解熱後7日目まで（発症者が12歳以下の場合は発症した日を0日目として発症後21日目まで）に接触した者とする。



  この枠内で患者と接触した可能性のある者のリストアップを迅速に行う。
インフルエンザ接触者調査表（添付1）

高危険接触者（濃厚接触者）

「新型インフルエンザ擬似患者以上との濃厚接触者」 濃厚接触者の定義参照

- ・ **世帯内居住者**：患者と同一住所に居住する者
- ・ **医療関係者**：患者の診察、処置、搬送等に PPE の装着なしに直接関わった者
- ・ **汚染物質への接触者**：患者由来の血液、体液、分泌物（汗を除く）、排泄物などに PPE 装着なしで取り扱った者
- ・ **直接対面接触者**：手で触れること、会話することが可能な距離で、患者と対面で会話や挨拶などの接触があった者。（接触時間は問わない。勤務先、学校、医療機関の待合室、会食やパーティー、カラオケBOXなどでの近距離接触者が該当）

低危険接触者（軽度接触者）

感染危険度はア イの順であり、ア～イのどこまでを確認し調査・健康観察・抗ウイルス薬予防投与の対象とするかは、パンデミックフェーズや患者の状況などを参考に決定する。

ア：直接対面接触者のうち、患者との距離が2メートルよりも近くなることがなかった者。

イ：閉鎖空間の共有者

- ・ 比較的閉鎖された空間において、2メートル以内の距離で空間を共有した者。
乗用車・バス・列車・航空機などの交通機関内や、ホテル・レストラン・映画館・ホールなどでのお互いに顔見知りではない近距離者がこれにあたる。

「要観察例」との接触者

原則的に経過確認調査や健康観察の対象者とはならない。しかし、検査結果を待って接触者調査に初めて着手する事が得策ではない場合も多いと予想されるため接触者リストの作成は行っておく。

【リストアップされた接触者の状況確認及び追跡調査（健康観察）】

感染発症者との接触状況に関する調査を十分に行い、観察開始日より最終曝露日を0日として10日目に至るまで毎日の健康観察を実施する。 接触者モニタリング票（添付2）

- ・ 高危険接触者（濃厚接触者）：1日2回（朝・夕）の検温を患者との最終の接触があった日より10日間（最終曝露日を0日として10日目が終了するまで）確実に行う。
- ・ 患者には体温記録用紙（添付3）を渡しておき、自己記録もしくは家族による記録を依頼する。
- ・ 原則的に、リストアップされた接触者に対しては保健所などの担当者からの面接や毎日の電話やFAXの連絡による健康状態の把握などの情報収集を行う。（アクティブ・サーベイランス）

【リストアップされた接触者に対する抗インフルエンザ薬の予防投与】（接触者予防投与）

- ・ 予防投薬期間は、最終曝露日を0日目として曝露後10日目までとする。

（例えば、曝露後3日目に接触者としてリストアップされて内服を開始した場合、曝露後10日目までの計8日間の内服となる）

リン酸オセルタミビル75mgカプセル 1日1回（10日間）

【リストアップされた接触者に対する指導と受診の基準】

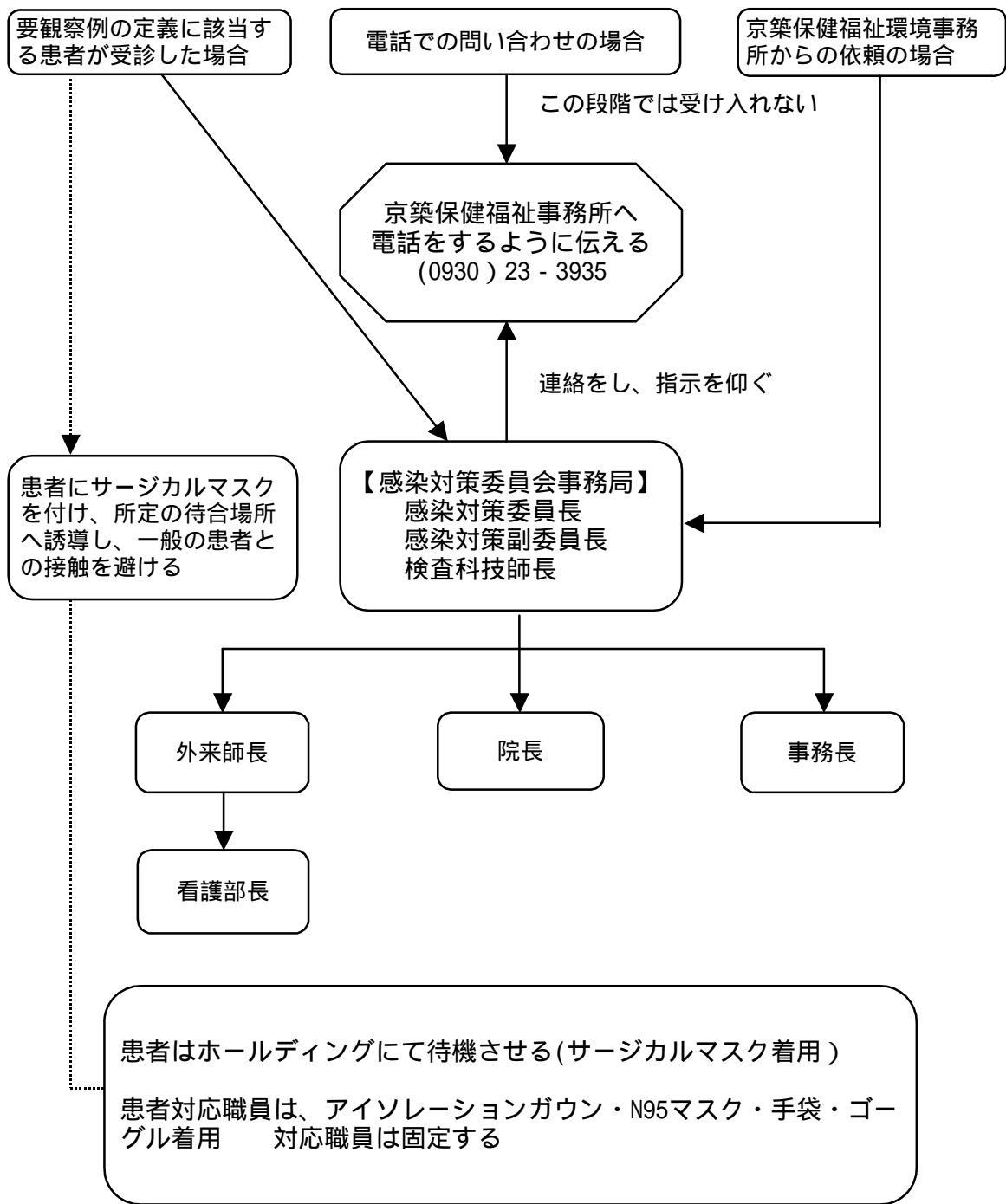
- ・ 自宅で待機させ、やむを得ず外出する際はマスクを着用するように指導を行う。
- ・ 新型インフルエンザの感染症状が認められた場合は直ちに保健所へ連絡するよう予め説明する。
- ・ 有症状時の行動は、人の集まる場所での活動は可能な限り避けるべきであることを説明する。症状が出現した場合、速やかに保健所に連絡しその指示のもとに保健所が指定した医療機関を受診してもらう。（新型インフルエンザ専用搬送車にて搬送する）

【リストアップされなかった接触者に対して】

- ・ 接触者ではあるが、リストアップの必要がないと判断された者に対しても感染の可能性などを説明し、基本的には自己観察を依頼する。経過観察期間中（曝露日を0日目とし10日目終了まで）に38以上の発熱、急性呼吸器症状が出現した場合は、直ちに保健所に連絡し相談するよう依頼する。（体温記録用紙を渡す）

【新型インフルエンザ対応マニュアル（日勤帯）】

《対策本部設置 “前” 》



入院が不要な場合は、そのまま帰宅させる。

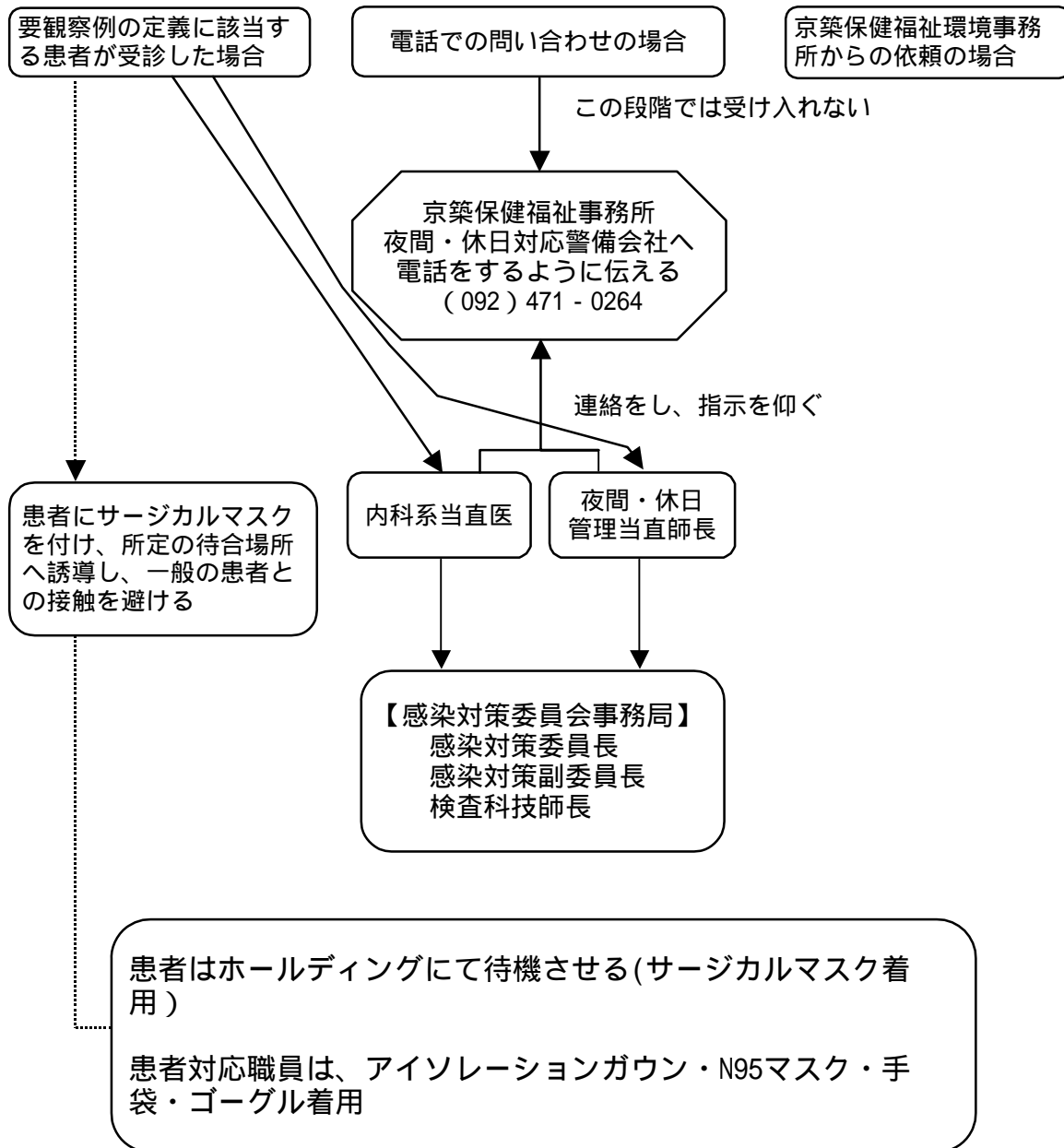
入院が必要な場合は、搬送準備を行う。

京築保健福祉環境保健所へ連絡、同所の専用車にて搬送を依頼

対策本部設置後は、対策本部の指示に従う

【新型インフルエンザ対応マニュアル（夜勤帯）】

《対策本部設置“前”》



入院が不要な場合は、そのまま帰宅させる。

入院が必要な場合は、搬送準備を行う。

京築保健福祉環境保健所（夜間・休日対応警備会社）へ連絡、同所の専用車にて搬送を依頼

対策本部設置後は、対策本部の指示に従う

各フェーズの感染対策

【フェーズ3 A、3 B】

フェーズ3 A、3 Bは、国外（3 A）・国内（3 B）でヒトの鳥インフルエンザ感染例が存在する時期である。海外渡航歴があり感染が疑われる患者や、突然国内で感染した患者が来院することも念頭に入れ診療を行う必要がある。

《受付担当者》

次の症状がある患者が来院した場合は、注意を要する。

- ・ 発熱、咳嗽の症状がある患者。
- ・ 10日以内に海外渡航歴のある患者。
- ・ 鶏、アヒル、うずら等に濃厚に接触した覚えのある患者。

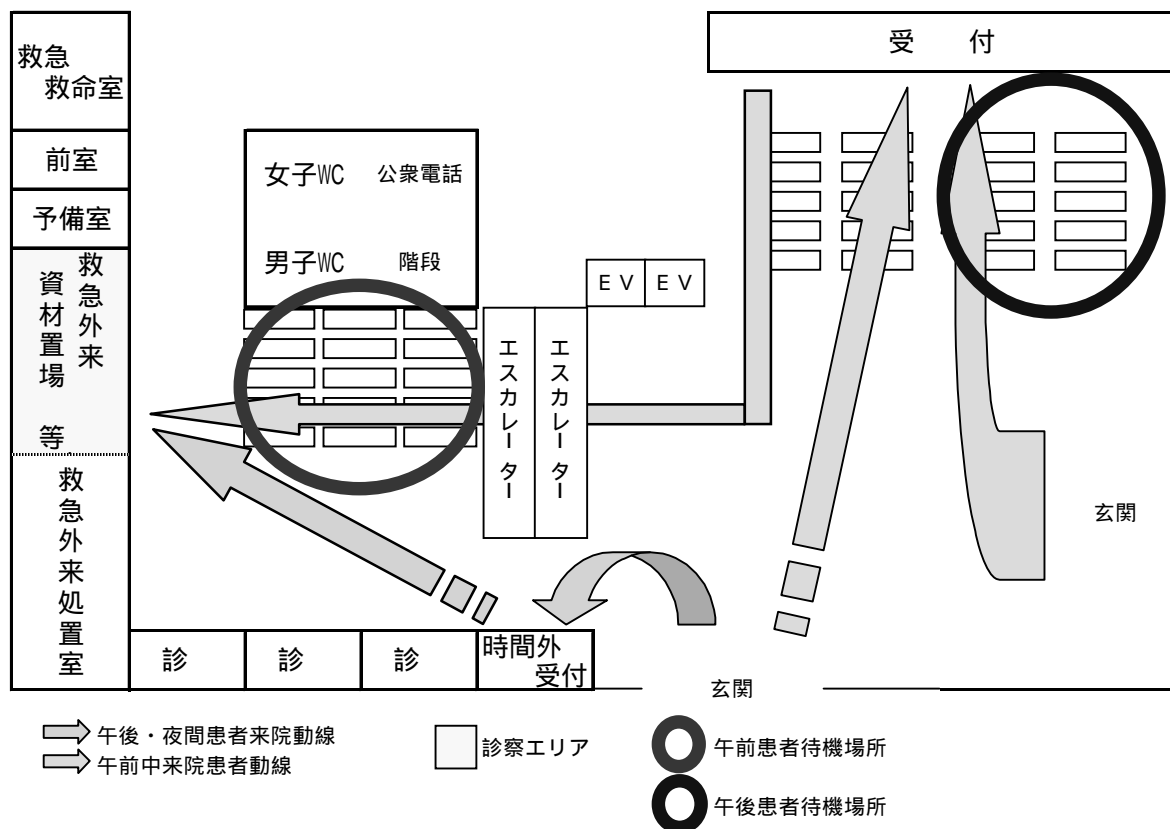
上記にあてはまる患者が受診した場合、対応職員は速やかにサージカルマスクまたはN95マスクを着用する。また、患者にはサージカルマスクを着用してもらい、ホールディングルームへ誘導する。

感染対策委員長、副委員長に連絡を行う。（詳細は感染発生時の連絡体制参照）

《担当医師及び看護師》

N95マスクを着用し診療に当たる。鳥インフルエンザが疑われる場合は、感染症指定医療機関への転送手続きを行う。

[1階 平面図]



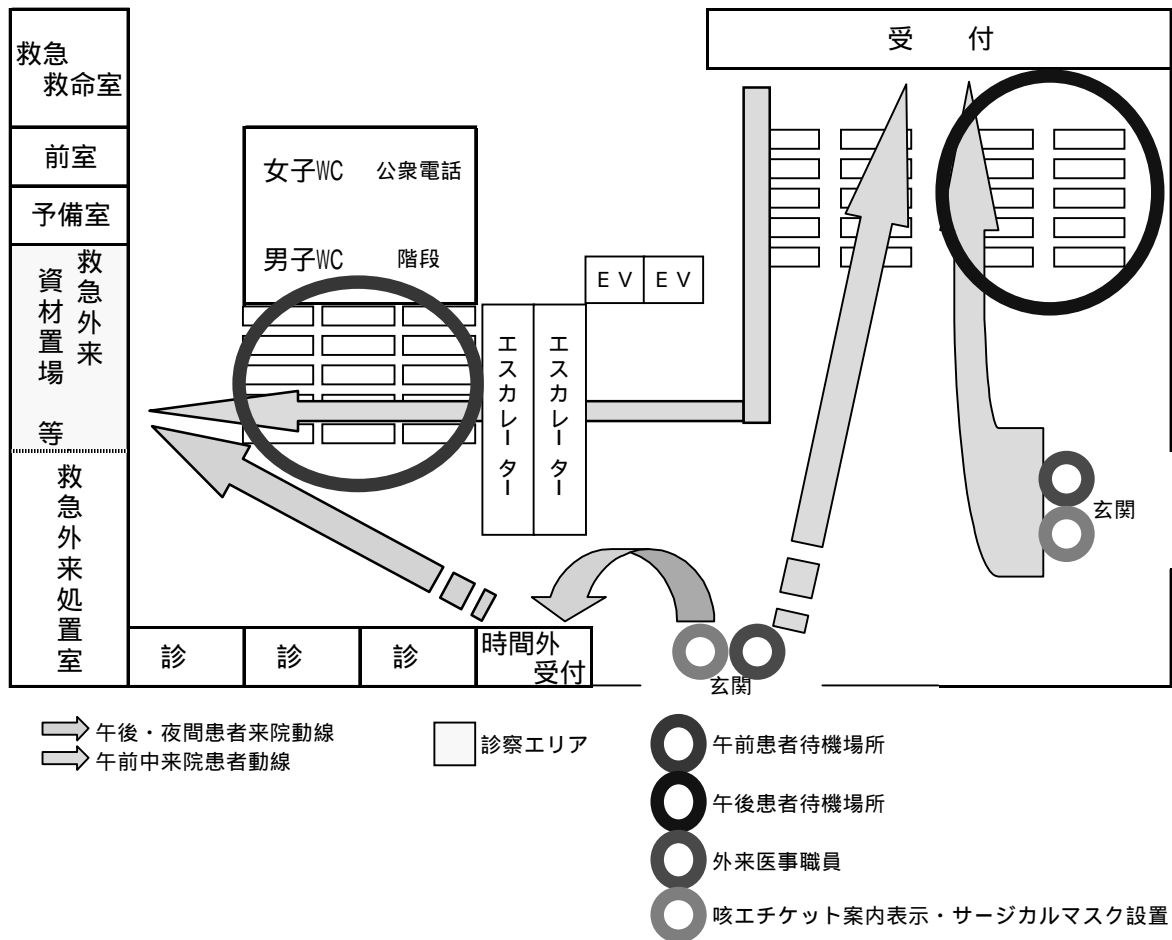
【フェーズ4A・5A・6A】

国外でヒト ヒトへの感染が発生し流行する時期である。国内発生は確認されていない時期ではあるが、海外渡航歴があり【フェーズ3A、3B】で挙げた項目に該当する患者は、管内で「発熱外来」が開設された場合はそちらで誘導し、できる限り感染の拡大を抑える努力を行う。

【フェーズ4B】

ヒトからヒトへの新しい亜型のインフルエンザ感染が国内で確認されているが、感染集団は小さく限られている。この段階より「新型インフルエンザ対策本部」を設置。対策本部からの指示に全部署従う。

[1階 平面図]



正面玄関及び時間外玄関に外来医事職員を各1名ずつ配置し、玄関での1次トリアージを行う。また、発生状況に応じ看護職員を受付に配置する。

午前中に次の症状がある患者が来院した場合は、その場でサージカルマスクを着用させ、原則として管内に設置される予定の「発熱外来」へ誘導する。不可能な場合は、上記の のエリアに誘導する。同様に午後は のエリアに誘導し、その他の症状の患者との接触を可能な限り避ける。

- ・ 38 以上の発熱、咳嗽の症状がある患者。
- ・ 10 日以内に海外渡航歴のある患者。
- ・ 鶏、アヒル、うずら等に濃厚に接触した覚えのある患者。
- ・ 新型インフルエンザに罹患している可能性のある人と濃厚に接触した覚えがある。

また、正面玄関及び時間外玄関には、「咳エチケット」の案内ポスターを表示し、サージカルマスクを設置する。

外来診療に関して

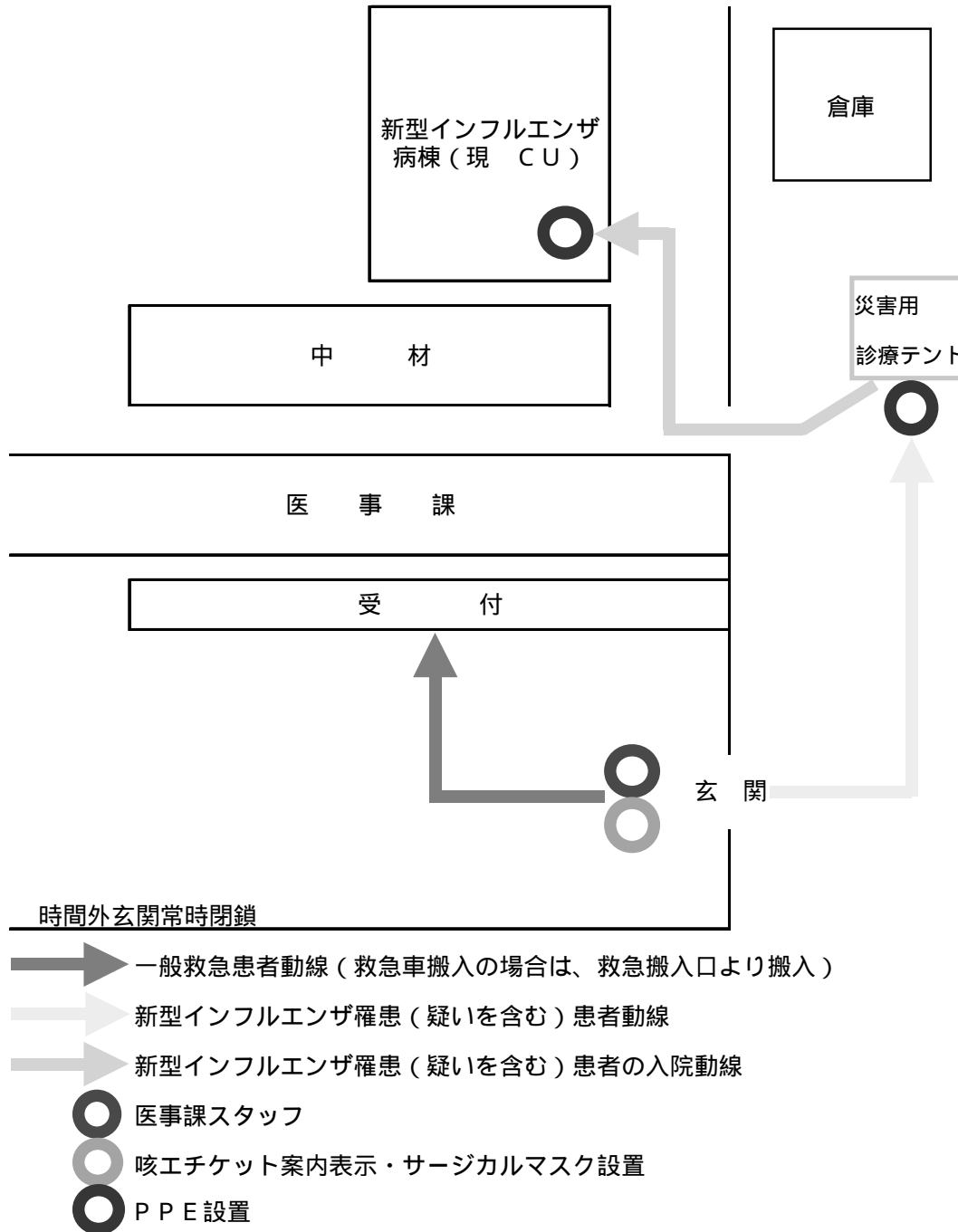
この時期より、新型インフルエンザ罹患（疑いを含む）患者は、1階救急外来処置室（資材置場も整理整頓して利用する。）にて診療を行い、できる限り帰宅させる。入院を要する患者の場合は、感染症指定病院へ転送する。それ以外の患者の診療は、終日2階の診療ブースで行う。

【フェーズ5B】

ヒトからヒトへの新しい亜型のインフルエンザ感染が国内で確認され大きな集団発生が見られる。(疑いを含む)患者の診療は災害テント内にて行う。

病棟に入る患者以外のすべての人はフルPPEを装着する。

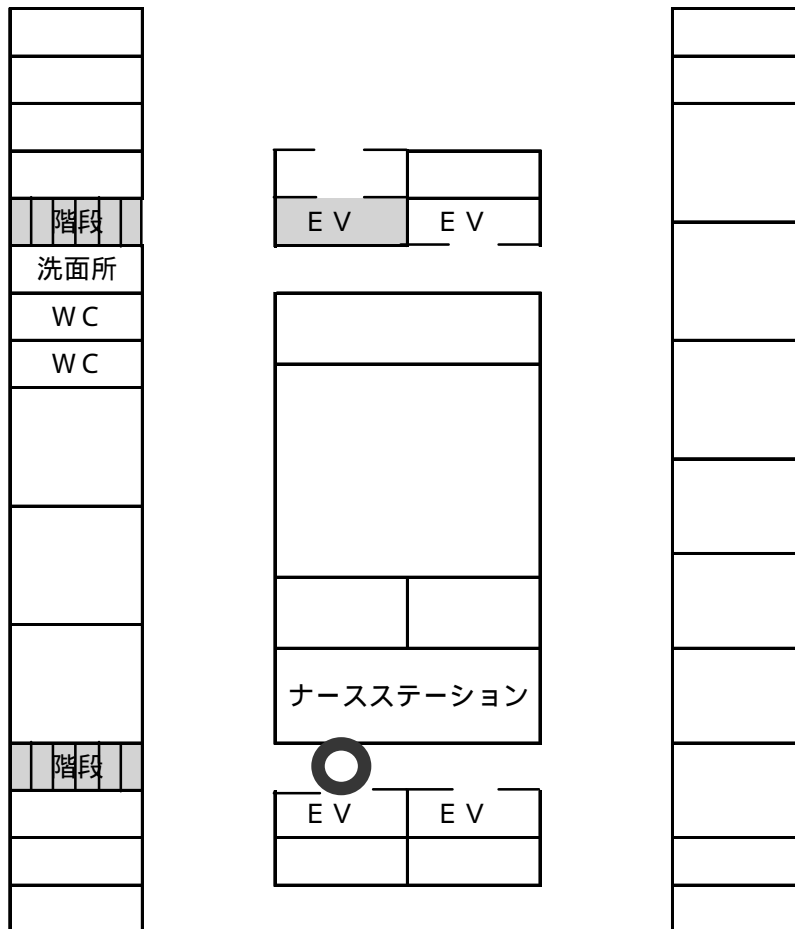
[1階 平面図]





【フェーズ6 B】

パンデミックが発生し、世界の一般社会で急速に感染が拡大している。患者数増大に合わせ新型インフルエンザ病棟をICUから3階病棟へ変更する。

[3階 平面図]



 この色のゾーンは基本的に閉鎖する。

 外来者用PPE設置

- ・ 患者はEVにて搬入する。
- ・ EVは3階病棟で停止しないよう設定する。EVは食材EVのため稼働する。
- ・ 原則として患者の面会は禁止とする。やむを得ない場合はEVにて上がってもらう。受付は必ず病棟に知らせ、病棟スタッフはEV前に待機し、PPEの指導を行う。
- ・ 病棟に入る患者以外の全ての人にはフルPPEを装着する。

【パンデミック後期】

パンデミックが発生する前の状態へ、急速に回復する時期。

- ・ 新型インフルエンザ罹患入院患者が14名になった段階で、新型インフルエンザ病棟をICUに変更する。
- ・ 災害用診療テントでの診療は、患者の状況に応じて行い、患者数減少に伴い診療体制を通常に戻していく。
- ・ 上記は全て対策本部からの指示に従う。

新型ノウインフルエンザ接触者調査票

1	調査担当保健所名： 調査日時： 年 月 日 時	調査者氏名： 調査方法： 面接 電話 その他()
---	----------------------------	------------------------------

2	接触者番号：	3 接触者居住地保健所：
4	接触患者発生届受理番号：	5 患者居住地保健所：

接触者詳細

6	氏名：	7 性別：
8	生年月日： M T S H 年 月 日	8 年齢：
10	住所：	
11	電話番号： 自宅： - - 携帯： - -	
12	職業(勤務先)：	
13	調査回答者： 本人 本人以外 本人との関係()	

(14～16は回答者が本人以外の場合のみ)

14	回答者氏名：																								
15	回答者住所：																								
16	回答者電話番号： 自宅： - - 携帯： - -																								
17	同居人の状況 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">氏名1</td> <td style="width: 10%;">続柄</td> <td style="width: 10%;">年齢</td> <td style="width: 10%;">歳</td> <td style="width: 25%;">氏名4</td> <td style="width: 10%;">続柄</td> <td style="width: 10%;">年齢</td> <td style="width: 10%;">歳</td> </tr> <tr> <td>氏名2</td> <td>続柄</td> <td>年齢</td> <td>歳</td> <td>氏名5</td> <td>続柄</td> <td>年齢</td> <td>歳</td> </tr> <tr> <td>氏名3</td> <td>続柄</td> <td>年齢</td> <td>歳</td> <td>氏名6</td> <td>続柄</td> <td>年齢</td> <td>歳</td> </tr> </table>	氏名1	続柄	年齢	歳	氏名4	続柄	年齢	歳	氏名2	続柄	年齢	歳	氏名5	続柄	年齢	歳	氏名3	続柄	年齢	歳	氏名6	続柄	年齢	歳
氏名1	続柄	年齢	歳	氏名4	続柄	年齢	歳																		
氏名2	続柄	年齢	歳	氏名5	続柄	年齢	歳																		
氏名3	続柄	年齢	歳	氏名6	続柄	年齢	歳																		
18	患者または鳥との接触状況(日付、場所、接触内容を記載)																								
19	患者または鳥との最終接触日時： 年 月 日 時ごろ																								
20	高危険接触者 低危険接触者 要観察例との接触																								
21	接触時感染防御： あり() なし																								

接触者の調査時の状態

22	体温：(°C) 38°C以上の発熱 なし あり
23	呼吸器症状： なし：咽頭痛・咳・痰・呼吸困難・低酸素症・その他() あり
24	消化器症状： なし：下痢・嘔吐・腹痛・その他() あり
25	発熱・呼吸器症状以外の症状： なし あり：頭痛・筋肉痛・関節痛・全身倦怠感 その他の症状()

検査医療機関() 電話() 主治医()
 検査所見：血算(月 日)：白血球 赤血球 血小板 その他()
 インフルエンザ抗原検査(月 日)：陽性(A型・B型・A B不明) ・陰性 ・未実施
 胸部レントゲン(月 日)：<所見>
 ウイルス分離一同定(月 日)検体材料()：陽性(亜型) ・陰性 ・検査中
 RT-PCR検査(月 日)：陽性(亜型) ・陰性 ・検査中
 血清抗体価(月 日)検査法()(亜型)：抗体価()倍 ・検査中 ・未実施

太枠内は必須。検査所見に関してはわかっている場合は記載のこと。検査所見日付は検体採取日。

新型ノウインフルエンザ接触者モニタリング票

接触者番号： 氏名：

患者ノ鳥との最終接触日時： 年 月 日 時ごろ

最終接触より	日付	連絡手段	体温	予防内服	呼吸器症状	呼吸器以外の症状	確認者
0日	/		朝	有	なし・咳・痰・呼吸困難 その他()	なし・下痢・嘔吐・倦怠感 その他()	
			夕	無	なし・咳・痰・呼吸困難 その他()	なし・下痢・嘔吐・倦怠感 その他()	
1日	/		朝	有	なし・咳・痰・呼吸困難 その他()	なし・下痢・嘔吐・倦怠感 その他()	
			夕	無	なし・咳・痰・呼吸困難 その他()	なし・下痢・嘔吐・倦怠感 その他()	
2日	/		朝	有	なし・咳・痰・呼吸困難 その他()	なし・下痢・嘔吐・倦怠感 その他()	
			夕	無	なし・咳・痰・呼吸困難 その他()	なし・下痢・嘔吐・倦怠感 その他()	
3日	/		朝	有	なし・咳・痰・呼吸困難 その他()	なし・下痢・嘔吐・倦怠感 その他()	
			夕	無	なし・咳・痰・呼吸困難 その他()	なし・下痢・嘔吐・倦怠感 その他()	
4日	/		朝	有	なし・咳・痰・呼吸困難 その他()	なし・下痢・嘔吐・倦怠感 その他()	
			夕	無	なし・咳・痰・呼吸困難 その他()	なし・下痢・嘔吐・倦怠感 その他()	
5日	/		朝	有	なし・咳・痰・呼吸困難 その他()	なし・下痢・嘔吐・倦怠感 その他()	
			夕	無	なし・咳・痰・呼吸困難 その他()	なし・下痢・嘔吐・倦怠感 その他()	
6日	/		朝	有	なし・咳・痰・呼吸困難 その他()	なし・下痢・嘔吐・倦怠感 その他()	
			夕	無	なし・咳・痰・呼吸困難 その他()	なし・下痢・嘔吐・倦怠感 その他()	
7日	/		朝	有	なし・咳・痰・呼吸困難 その他()	なし・下痢・嘔吐・倦怠感 その他()	
			夕	無	なし・咳・痰・呼吸困難 その他()	なし・下痢・嘔吐・倦怠感 その他()	
8日	/		朝	有	なし・咳・痰・呼吸困難 その他()	なし・下痢・嘔吐・倦怠感 その他()	
			夕	無	なし・咳・痰・呼吸困難 その他()	なし・下痢・嘔吐・倦怠感 その他()	
9日	/		朝	有	なし・咳・痰・呼吸困難 その他()	なし・下痢・嘔吐・倦怠感 その他()	
			夕	無	なし・咳・痰・呼吸困難 その他()	なし・下痢・嘔吐・倦怠感 その他()	
10日	/		朝	有	なし・咳・痰・呼吸困難 その他()	なし・下痢・嘔吐・倦怠感 その他()	
			夕	無	なし・咳・痰・呼吸困難 その他()	なし・下痢・嘔吐・倦怠感 その他()	

連絡先：自宅： - - 担当者名：
 携帯： - -

